

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(音楽)／松岡  
貴史

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

・授業内容に関しては、専門性を深めるために基礎力の徹底と応用力の養成を図る。その際、論理的理解と感覚的理解が共に働くようにすること、個の伸長を助けるだけでなくコミュニケーションを広げ協働する力を身につけさせることが肝要である。

・授業方法に関しては、特に音楽の授業において、直観的理解が進むよう、音による実例を多く取り入れ、感性と、その裏付けとしての論理性に着目する習慣を身につけさせる。また、他者のさまざまな価値観に出会い、認め合い、自己変革しながら学んでいくチャンスを提供できるよう、討論や発表を多く取り入れる。

・授業をとおして学生が何を学び、どう自己変革できたか、また自己を省察する力を評価の大切な視点としたい。履修前から学生が持っている基礎力や技術力という側面での個人差が大きくても、そのことが評価を決定づけることがないようにする。

#### 2. 点検・評価

・授業内容に関しては、「初等音楽Ⅰ」「音楽通論Ⅰ」において楽典やソルフェージュ、「音楽の理論と歴史」において音楽理論やキーボードハーモニー、「音楽の理論と歴史」において和声学など、専門性を深めるための基礎力の徹底と応用力の養成を図っている。その際、論理的理解と感覚的理解が共に働くようにすることを常に重要視している。また、「音楽の理論と歴史」「作曲法Ⅰ」「作曲法Ⅱ」「作曲法基礎演習」等において、創作をとおして、自己実現の喜びとコミュニケーションの喜びを実感させ、個の伸長を助けるとともにコミュニケーションを広げ協働する力を身につけさせるよう配慮した。

・授業方法に関しては、音楽のすべての授業において、直観的理解が進むよう、音による実例を多く取り入れ、感性と、その裏付けとしての論理性に着目する習慣を身につけさせるようにしてきている。また、他者のさまざまな価値観に出会い、認め合い、自己変革しながら学んでいくチャンスを提供できるよう、すべての授業において、討論または発表を多く取り入れた。

・初回の授業を始めるにあたって、学生のニーズと授業計画を照らし合わせた上で学生の到達目標を意識させるとともに、15回の授業をとおして何を学び、どう自己変革できたか、自己を省察するよう促した。そのことを評価においても重視し、評価が甘くならぬよう心がけた。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ・ 学生が主体的に授業に参加できるよう、発表や討論を取り入れる。
- ・ 複数教員担当授業については、講義内容の関連付けができるよう、さらに連携を図る。
- ・ 授業外でも学生が質問しやすいよう、また教員採用試験に向けての支援をするため、オフィスアワー等を活用する。
- ・ 普段から人間形成に音楽の果たす大切な役割に触れ、学生の創造力、表現力、コミュニケーション能力の伸長をあたたく見守る。
- ・ 学生とのコミュニケーションを大切にし、心の健康を見守り、学生生活を支援する。

#### 2. 点検・評価

- ・ 授業については、学生が主体的に参加できるよう、「西洋の文化研究」「初等中等教科教育実践Ⅲ」「音楽の理論と歴史」「音楽通論Ⅰ」「作曲法Ⅰ」「作曲法Ⅱ」「楽曲分析研究」「作曲法基礎演習」において発表または討論を取り入れた。
- ・ 複数教員担当科目については、「初等中等教科教育実践Ⅲ」において、さらに授業改善が進められるよう連携を図り、学生の学びに大いなる成果があったことが教育実習でも確認できた。さらに、「初等音楽Ⅰ」「初等音楽Ⅱ」については、モデルカリキュラムのテキスト作りとも関連させ、授業改善が進められるよう授業担当者間で連携を図りながら、授業を進めた。
- ・ 授業外でも学生が質問しやすいよう、オフィスアワーその他の時間を活用し、さまざまな学生の学習や研究を支援した。また、学部3年生～大学院生を対象に、教員採用試験のための補習の時間を設け、音楽理論、創作、ピアノ初見視奏、弾き歌い、聴音等の指導を行った。実際に、採用試験合格の成果をあげた。
- ・ 常日頃から、人間形成に音楽の果たす大切な役割に触れるとともに、学生とのコミュニケーションを大切にし声かけを行い、孤立したり学業から離れたりする事のないよう見守り、学生生活を支援している。

### Ⅱ－2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ・ ヴァイオリンソロ曲〈Deep River〉を作曲し、「中国・四国の作曲家2013in米子」に出品する。
- ・ その他、管弦楽曲、室内楽曲、ピアノ曲、合唱曲のうちいずれかの作曲をするとともに、必要に応じてピアノ等の演奏をする。
- ・ 昨年度に申請した科学研究費補助金の結果に基づき、音楽コース全教員とともに「学生たちの自己省察力の育成をめざした音楽科教員養成カリキュラムの研究」を開始する準備をする。

#### 2. 点検・評価

- ・ 「復活祭のための3つの聖歌」を作曲し、初演した他、6月15日に米子市文化ホールで開催された「中国・四国の作曲家2013in米子～創造と交流の祭典～」(主催:中国・四国の作曲家、米子市他、共催:日本作曲家協議会他)にて、作曲作品〈Deep River〉 for violin soloを発表した。また、ピティナ課題曲アナリーゼ特集にて3曲についての執筆を担当した。
- ・ 教員養成モデルカリキュラムにおける本学の授業「初等音楽」を想定したテキスト(100頁)を音楽コース教員全員で作成したが、その中のソルフェージュとピアノの2章を分担執筆した。また、本学FD事業として特別公開授業(音楽の理論と歴史)を担当した他、教大協全国音楽部門大学部会全国大会の第4分科会「理論と実践をつなぐ作曲・指揮カリキュラムの具体化に向けて」にて、「和声創作課題導入の提言」を行った。科研費については、基盤研究(C)「学生たちの自己省察力の育成をめざした音楽科教員養成カリキュラムの研究」の申請をした。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

芸術・健康系教育部の教員として、また部長として、本学の運営に貢献する。

### 2. 点検・評価

芸術・健康系教育部の教員として、また部長として、そして音楽コース教員として、本学の運営に関する業務を遂行した。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- ・教育実習や授業支援等を通して、附属学校との連携を図る。
- ・教育支援等を通して、地域社会との連携を図る。
- ・自らの専門性を生かし、国際交流に貢献する。

### 2. 点検・評価

・附属学校とは、教育実習において、附属中学校の研究授業等にて指導助言を行うなど、連携を図った。  
・社会との連携については、「中国・四国の作曲家 2013in米子～創造と交流の祭典～」に出品、創造をとおして作曲家、演奏家と地域の人たちとの交流が広がる祭典に参加した。また、創作、ピアノ分野等のさまざまなコンクールの審査員を務めた。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

教育面では、発表や討論を取り入れた授業によって学生に主体的に考えさせ、理論と実践が遊離しないよう展開することによって、学生の興味や意欲を引き出すことができた。

研究面では、教科内容学に基づく小学校教科専門科目テキスト「音楽」を音楽コース教員全員で共同執筆し、教科内容学を土台にした授業実践に向けて研究を進めた。また、FD事業として特別公開授業(音楽の理論と歴史)を担当した他、教大協全国音楽部門大学部会全国大会の第4分科会「理論と実践をつなぐ作曲・指揮カリキュラムの具体化に向けて」にて、「和声創作課題導入の提言」を行った。

大学運営においては、教育部長を務め、その任務を果たした。